

中3英語LL授業の実践

—オンライン・教材開発—

筑波大学附属駒場中・高等学校 英語科
八宮 孝夫

中3英語LL授業の実践

—オンライン・教材開発—

筑波大学附属駒場中・高等学校 英語科

八宮 孝夫

要約

中学のLL授業というと、コースブックにしたがって、様々なシチュエーションの会話をナチュラル・スピードで聞き、それに回答することでリスニング力を鍛えるというのが主な目標である。耳が鋭敏な中学生のうちに英語のリズムや連音に慣れるというのは意味のあることである。本稿では、中学後半で語彙も文法もそれなりについてきた生徒に対して、様々なスタイルの内容（コマーシャル、ニュース、偉人伝、ショート・ストーリー、歌詞、日本の名作など）を聞かせることで要点や概要をつかむリスニングを目標とした実践を報告する。

キーワード：オンライン、全体の骨格、知的刺激、スキーマ(schema)、同内容を2バージョンのリスニング

1 はじめに

本校では、中学3年間、4時間授業のうち教科書使用の2時間+外国人講師とのティームティーチング1時間を1人の教師が、そしてLLの授業1時間をもう1人の教師が担当している。LL授業は *Tactics for Listening Series* (Oxford) の *Basic* を中2までに終了する。中3で中級である *Developing* に進んでもよいのであるが、担当者の裁量に任されている。今年度は筆者が担当であった。折からのコロナ禍で1学期当初はオンラインによるリスニング授業となった。通常LL教室でヘッドセットをし、それなりの集中力でもって、様々なシチュエーションの会話をナチュラル・スピードで聴き、回答するのが本校のLL授業である。必ずしも音声安定しないオンラインの授業で果たして同様の効果が得られるのか。また、そもそも、コースブックのリスニング教材は文法や語彙がそれなりについてきた中学3年生に適したものなのか、という疑問が浮かんだ。

日常の様々なシチュエーションが出てくるが、ほとんどのやり取りは1分にも満たない短いもので、例えば *Weekend* であれば、週末に何をしたというやり取りが、5パターンくらい出てきて、何をしたかにフォーカスして聞き取るわけである。それぞれの内容はたわいのないもので、内容に発展性があるわけでもない。正直、知的刺激に乏しいアクティビティである。リス

ニングには、あることに焦点を当てて、それを聞き取るという場合もあるが、もう1つ、一定の長さのものを聞いて概要を聞き取るという場合もある。阿部(2020:59)は「現実のリスニングで本当に大事なものは、全体の骨格が浮かび上がっているように聞けるかどうかです」と述べている。筆者もこの意見に賛成で、未習の基礎文法がほぼなくなり、語彙も1200語程度は習得している中3では、ある程度コントロールされた語彙で書かれたニュースや読み物などの概要を聞き取る活動の方が知的刺激もあり適しているのではないかと、思いそちらの可能性を探ることにした。

2 どのようなものを聞かせるか

今井(2020:134)は「リスニングというのはリーディングよりもずっと認知的な負荷が重い。リーディングでは読むスピードを自分でコントロールできる。途中で意味が終えなくなってしまったら、戻って再度読むこともできる。しかし、リスニングでは、聴こえてくる音声のスピードは自分では調整できない」と述べている。

つまり、リスニングでは途中でわからなくなると、それ以降聞き続けることはなかなか難しく、学習効果もない。したがって、細かいところまではわからなくても、おおよそ概要はわかり最後まで聞き続けることが出来るような教材を選ぶ必要がある。そのためには、

What I did for the “English Listening Comprehension” Class of the Ninth-grade Students

語彙面などでキーワードにあまり未知語がないようなものを選ぶ必要がある（または事前にヒントとして注釈をつける）。またいきなり全体の概要理解を求めるものでなく、初めのうちは焦点を絞って聴けるようなものが、負担が少ないであろう。以上のような点を考慮し、筆者はリスニングの入門として、NHK ラジオ『遠山頭の英会話楽習』で時々行っている Listen for it のコマの聞き取りをまず扱い、その後は、やはり NHK ラジオの『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』をベースに組み立てることにした（CEFR の A2~B1 レベルと表示あり、英検準 2 級に相当）。この番組は、偉人伝、ショートショート、落語、日本の名作、イソップ寓話などジャンルが豊富なのも魅力である。

最初の 2 回をリスニングと授業の進め方のイントロダクションにあて、その後は偉人伝 2 つ（ライト兄弟、ベーブ・ルース）日本の民話 1 つ（桃太郎）を扱った。イントロダクションで用いた『遠山頭の英会話楽習』の Listen for it は、英語がナチュラル・スピードである点、比較的短くてリスニング・ポイントを 4 つに絞ってある点、その 1 つ 1 つに絞って計 4 回聞くことができる点、また解答・解説でもゲストのフリートークがある点などから、リスニングの意識づけに最適と判断した。また、偉人伝は 2 人とも中学生でも名前や活躍した分野は知っていること、時系列で話が進むので焦点が絞りやすいこと、民話はなじみがあり展開も予測しやすい点で選択した。

認知心理学で、ある事柄についての枠組みとなる知識のことを「スキーマ」と呼ぶが、上記の題材は生徒が「スキーマ」をもっている可能性が高いといえる。「スキーマ」があると、今後の展開を予測しながらリスニングすることができるという利点がある。

以下が、1 学期のプログラムである：

- 5/12 中 3 自己紹介、Listen for it 1 配信
- 5/20 Google Meet (以下 GM) 1 Listen for it 1
- 5/27 GM 2 Listen for it 2
- 6/10 GM 3 The Wright Brothers 1
- 6/17 GM 4 The Wright Brothers 2
- 6/24 GM 5 Babe Ruth 1
- 7/01 GM 6 Babe Ruth 2
- *7 月以降、対面授業が始まったが、偶数・奇数生徒に分かれての登校であったので、実施しにくく、引き続きオンラインで継続。
- 7/08 GM 7 Momotaro 1
- 7/15 GM 8 Momotaro 2

3 どのように聞かせるか(オンラインの展開)

前項で、「概要が理解できるようなレベルの教材」を選択したことを述べた。まずその点を押さえるのが基本であるが、ともすると実力のある生徒には物足りなくなる可能性もある。また、文字を見れば平易でも、耳で理解するのは、それなりの難しさがある。通常の授業であれば、Oral Introduction の形で、視覚的なヒント難しい語彙の導入などして、いわば呼び水の導入をしてから、新教材の理解に入る。その代用として、テーマの内容と類似の youtube 動画をプラス・アルファとして扱うことにした。こちらは「リスニング教材」より内容的に詳しく、語彙的にもよりバリエーションがある。しかし、視覚的情報を伴っているので理解のハードルはそれほど高くない。一種の応用編として実力のある生徒も真剣に取り組むことになる。なお、Momotaro については、『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』版の平易なもの（効果音入り）を用いた。これは、もともと日本の昔話であり、youtube 動画より、こちらの方が優れていると判断したためである。

結局、①語彙・構文的にやや平易だが耳だけに頼るリスニング教材と②語彙・構文的にはやや高度だが視覚的情報のある youtube 動画といういわば同内容を 2 バージョンで聞かせることにし、オンライン授業では 1 トピックを 2 コマで扱った。その展開例を述べる。

3.1 オンライン授業の流れ (授業 1)

① 前週末に上述の SCRIPT なしの音声教材、概要の設問、関連の youtube 動画を配信、授業前までに、設問の答えを用意するよう指示(事前課題→提出は任意)
② オンライン授業当日: 音声教材を意味のまとまり単位で再生し、それに該当する設問の答えを個人指名しながら確認する。もし、その設問に対して youtube などで補足情報があれば、それも答えを募る。そうすることで、授業が単に設問の答えの確認に終始せず、プラス・アルファの要素の入った、ふくらみのあるものになる。(例えば、音声教材では年号しか出てこないところで、youtube では日付まで出てくれば、より正確な情報となる) 例えば、「ライト兄弟」では Biography of Wright Brothers for Kids, The Wright Brothers, First Successful Airplane (1903) を使用。長さは 3、4 分程度で、リスニング教材と内容的に重なる部分があるもの、子供向けでも内容的に信頼できるものを選ぶようにしている。

③ 場合によっては、音声教材には出てこないが、教材理解のための重要な背景知識となる情報が youtube にある。その場合は、例えば、設問 2.5 (設問 2 と設問 3 の中間に位置する設問) として、その解答を募る。youtube 動画のほうが音声的に多少チャレンジングであるが、一方で動画であるから視覚的な情報がある分、音声のみの教材より理解しやすい面もある。

④ 設問の解答ばかりでなく、文法的に重要なもの、単語や成句の陽的なことも補足説明する。これは画面共有する資料に事前に準備してあるのでスクロールすれば順次出てくる仕組みで、スペース的に限られている黒板に比べてオンライン上のほうが自由度が高い。

⑤ 授業後、画面共有で提示した内容を「解説編」として配信する。(生徒側のネット環境は様々であり、必ずしも大画面でノートを取りながら視聴できる生徒ばかりでなく、スマホの画面で視聴している生徒もいる。不具合でアクセスできない場合もある。不公平感がないように、授業後「解説編」を配信するようにした)

また、この際に、音声スクリプトも配信し、自分の聞き取れなかった箇所を確認させる。

⑥ 授業 2 につながる課題として、音声スクリプトを参考に英文サマリーを書くよう指示。これは設問の解答をつなげばサマリーの下書きは出来るので、後は接続詞を補う、重複する名詞は代名詞に置き換えるなど、談話文法的な部分に注意させる。また、内容について英文の感想、youtube で得られた情報などをまとめ、週末に提出させる (必修課題)。「ライト兄弟」での設問と生徒のサマリー例を 1 つあげよう。

○設問の例

1 What were the first names of the Wright Brothers?

2 When were they born? (and where?)

3 Why did they get interested in flying?

4 What job did they do first?

5 Then what shop did they open?

6 When did their first successful flight take place (and where)?

7 What was their record on that day?

8 What other information have you got from these videos?

○サマリーの例

Two brothers, Wilbur (born in 1867, Indiana) and Orville (born in 1871, Ohio) Wright lived in Ohio in the United States. Wilbur loved to make things and Orville was active and lively. When they were

children, they were interested in flying, so they entered a kite flying contest and won a first prize. When they grew older, the brothers opened their bicycle shop and also made a flying machine to chase their dream. They wanted to fly in the air like birds someday! They had trouble to make a flying machine, but they never gave up. Finally, on December 17, 1903 in Kitty Hawk, the Wright brothers set a record of the longest flight and the airplane was called the Wright Flyer. (3A, K)

3.2 オンライン授業の流れ (授業 2)

① 週末に提出させた課題をチェックし、サマリーについては大きな文法間違いなど 2、3 点に絞って添削、コメントをつけて返却 (Google Classroom に提出された課題は、コメントをつけ返信すると「返却欄」に整理される。未提出者は「未提出」と記録される。) 各クラスからよくまとまったサマリーを選び、該当生徒に許可を取った上で、いくつかブランクをあげ、Review summary を作成)。事前に配信し、復習しておくように指示。どのクラスからも、Review に適したようなサマリーが提出された。もちろん、長さなど多少こちらで調整する場合もある。

② オンライン授業当日: 画面共有にて、ブランクのあるサマリーを提示し、個人指名しながら穴埋めをし、前回の話の復習を行う。

③ 穴埋め後、音読練習をする。オンラインで難しいのは、コーラス・リーディングである。41 名全員がマイクを on にして、音読するわけには行かない。モデルとなる私の声も乱れ不安定になってしまう。かといって、全員が off というのもリズムが悪い。ボランティア的に 2,3 名の生徒にマイクを on にしてもらい、音読をした。(余裕があれば、この後 1 文ずつの個人読みを行えばよい)

④ この後、サマリーのバリエーションとして、他に生徒の参考になる例を画面共有で紹介、また英文感想もいくつか紹介する。プラス・アルファの情報を紹介し、本文の内容を更に深めて、まとめとする。

○プラス・アルファ情報の例

◎Family and life of The Wright Brothers

The brothers were two of seven children to Milton Wright, a clergyman.

The brothers grew up in Indiana and Ohio, moving several times during their childhood.

In 1890 their mother died of tuberculosis. 結核

In 1912, Wilbur became sick and died at the age of 45. He had never married, and had no children.

「ライト兄弟」は実は 7 人兄弟だったことが、ここからわかる。

3.3 オンライン授業のまとめ

通常の英語授業は以下の手順で進めている：

- ①Review of the previous material
- ②Oral Introduction of the new material
- ③Explanation
- ④Reading aloud
- ⑤Activities
- ⑥Consolidation

これを今回のオンライン授業の流れに当てはめると以下のようになると思われる：

- ・事前課題（スクリプトなしの音声教材、概要理解の設問、補足情報を含んだ youtube 動画配信、予習）
（Oral Introduction に相当）
- ・授業 1（音声教材の内容理解確認、補足情報にて背景知識）→音声スクリプト、授業解説の配信、
（Explanation に相当）
- ・事後課題（設問の解答に基づく英文サマリー、感想、youtube 補足情報のまとめを提出→添削・返却）
（Activities after Explanation に相当）
- ・事前課題（Review summary に取り組む）（Review に相当）
- ・授業 2（Review summary 確認、音読練習、提出課題のクラスへのフィードバック）
（Reading aloud, Consolidation に相当）

これを見ると、オンライン授業といっても、特別なものではなく、基本は通常の流れを念頭に置きつつ進めるべきものだということがわかる。

4 1 学期オンライン授業への、生徒の反応

1 学期のまとめとして、生徒に Google form によるアンケートを実施した。その結果をいくつか示す。（別紙参照）

これによれば、今回の授業形式について 88.3%の生徒が肯定的にとらえている。授業レベルについても、「やや難しい」45%、「ちょうどよい」42.5%で、ほぼ 9 割になり、レベル的にも妥当だったと言える。

1 コマで扱う分量も「やや多い」40.5%「ちょうどよい」50.5%で、こちらも 9 割となり妥当と思われる。

事前配信のリスニング課題は「ほぼ毎回取り組んだ」

37.8%、「大体取り組んだ」35.1%で 7 割以上の生徒が取り組んでおり、Review Summary に関しても、7 割の生徒が取り組んでいた。

オンライン授業への出席率も「ほぼ毎回出席した」80.2%、「大体出席した」11.7%で 9 割以上出席率である。内容についての感想は「大変面白かった」14.4%、「まあまあ面白かった」66.2%で 75%程度の生徒は好意的であるが、「何とも言えない」も 22.5%おり、ここは改善の余地があると考えられる。

今回のリスニング教材と youtube 動画の 2 種類の音源を用いての 1 レッスン 2 コマの授業展開については「妥当である」42.3%、「まあまあ妥当である」37.8%で、これも生徒は好意的にとらえていると言える。

この他、別紙には掲載していないが、課題への負担は「やや重い」57.7%、「ちょうどよい」22.5%、課題の成果については「ためになった」36%、「ややためになった」44.1%で、8 割の生徒が評価していることが分かった。手探りの中で始めたオンライン授業による週 1 時間の中 3 リスニング授業であるが、及第点と言えるのではないと思う。ただ、「一回も先生の指名が当たらなかった」と回答している生徒もおり、より個々の生徒に注意を向けていかないといけないと反省している。

5 2 学期の実践（対面授業）

5.1 2 学期のプログラム

2 学期は対面授業の実施に戻り、LL 教室で行った。1 学期と同様、特定のコースブックなどは使用せず、NHK ラジオの『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』の教材をベースにして、リスニング教材を作成。扱ったテーマは以下のとおり：

9/02 Listen for it 3 (CM の聴き取り)

9/09 Geography of Chile (チリの地理)

9/16 Review of Geography of Chile

9/23 The Beatles : 'Help!' の歌詞に聞き取り

9/30A Brief History of the Beatles (ビートルズ小史)

10/07 The Nose : Part1 (芥川龍之介『鼻』)

10/14 The Nose : Part2

10/21 The Nose : Part3

10/28 The Nose : Part4

11/11 Joe Biden's Acceptance Speech

11/18 Galileo Galilei

11/25 Review of Galileo Galilei

このうち、The Beatles は 2020 年が誕生して 60 周

年ということで扱い、ベースは *The Beatles* (Pearson English Readers: Level 3) と youtube の A Brief History of The Beatles である。また、11月始めに4年に1度の米国大統領選があったので、多少語彙的にはチャレンジングであったがバイデン氏の勝利スピーチを取り上げた。

5.2 2学期の授業展開

2学期は放課後の部活動、文化祭準備なども再開したため、1学期のように2時間1Unitでサマリーライティングまですることはせず、本来のリスニングに集中した。基本的な展開は以下のとおり：

- ① 概要質問（日本語）、Detailed 10 questions の2段階の聞き取りを行う。最初に日本語で質問するのは、苦手な生徒にもハードルを下げる目的。その中でキーワードが出てきたら英語でフレーズを言わせ、皆で確認し、2段階目の Detailed questions に対応できるようにする。
- ② 解答を確認しながらスクリーンに文字を出しつつも確認する。
- ③ 最後に Grammar & Expressions として、重要表現の和文英訳など行う。

使用した音源や解答のまとめは1学期同様、Google Classroom にアップし、復習ができるようにしている。対面授業にはなかったが、オンラインで活用した Google Classroom は継続して活用するよう、心がけている。また、*The Beatles* を扱って以降は、授業の初めに彼らの曲をかけてから授業に入るようにした。これは、後で紹介するように、生徒には好評であった。

また、2学期で一番力を入れた *The Nose* は、担任団で国語を担当している有木先生が国語で原文の『鼻』を扱ってくださったおかげで、英語の表現や音声面だけでなく、内容的にも深めることが出来た。

5.3 生徒の教材に対する感想

期末考査の中で、印象に残った教材について感想を書いてもらったので、いくつか紹介する。

- ・ I think that the movie of Chile is the best experience. I had known nothing about Chile, but it taught me a lot. Also the boy who spoke in it had a nice intonation. (3A, I)
- ・ The most interesting topic I felt was Galileo. I knew about the experiment in Pisa and the Earth moves around the sun, but didn't know about the discovery with his telescope and the Roman

Inquisition, so I want to know about these. The funniest story I felt was "The Nose." His very long nose was of course funny, but the treatment and the people around people is also funny. (3A, E)

・ "The Nose" was the most interesting class for me. I haven't read it before, so it was a good chance to read it in English and also in Japanese. And I thought that people are sometimes unkind, but I want to be kind to every time. I could know many songs of the Beatles. All of them are very good songs. (3B, K)

・ My father likes the Beatles, so I knew some songs, such as "Help!" There were some songs I hadn't known. "Here comes the sun" is a nice song. I listened to it on CD at home after the class. I want you to let us listen to the Beatles next year too. (3B, S)

・ I'm interested in Biden's speech. In the speech, there are a lot of famous sentences. So I'm attracted. (3C, N)

・ I like "The Nose" the best. It wasn't too hard to listen, and its lesson was very interesting. We read "the Nose" in the Japanese class too. In the class, Mr. Arika put a wig on his head, like Naigu's nose got shorter! It was very funny. (3C, H)

以上のように、扱ったテーマ全てについて生徒が何らかの関心を持ってもらえたことは、非常に幸いであった。特に、ビートルズのように時代的になじみのないものはどうか、少々心配であったが、やはり優れたものの価値はちゃんと認める素地があった。親御さんとも話題にして盛り上がった生徒もいて、望外の喜びであった。ビートルズについては別枠でアンケートも取ったのであるが、好意的な感想が多かった：

- ・ I learned the greatness of The Beatles. There are a lot of new learnings for me for example, the initial members were John Lennon and Paul McCartney and that John Lennon was shot to death. I understand the meaning the Beatles being popular all over the world.
- ・ Knowing the life of the singer and the history of the group deepened my understanding of the song.
- ・ I wanted to listen to music in the field that I had never heard before and listen to another music from now

6 おわりに

本稿では、1 学期のオンライン授業の展開と 2 学期の対面授業以降の授業展開について述べてきた。大学の共通テストの英語の出題内容がより日常的な場面に沿ったものに変わりつつあり、列車の時刻表を聞き取ったり、グラフを読み取ったりする実際的な英語能力を試す傾向が高まっていると聞く。そういうものの重要性は否定しないが、学校の教育は実用的な部分だけで終わるわけではない。人の心を豊かにする物語や歌や劇を耳で聞き、理解し味わうことも大切な側面である。今回の実践を通じて、ますますその思いを強くした次第である。

【参考文献】

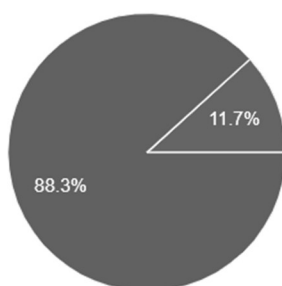
1. 阿部公彦 (2020) 『理想のリスニング』(東京大学出版会)
2. 今井むつみ (2020) 『英語独習法』(岩波新書)
3. Shipton, Paul (2008) *The Beatles* (Pearson English Readers Level 3) (Pearson Education)
4. 高山芳樹、Daniel Stewart 編 (2014) *Heroes and Giants* (NHK CD Book) (NHK 出版)
5. 高山芳樹、Daniel Stewart 編 (2019) *“Run! Melos” and other stories* (NHK CD Book) (NHK 出版)
6. 高山芳樹、Daniel Stewart 編 (2020) 『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』(9月号) (NHK 出版)
7. 遠山顕 (2007) 『英語劇場 桃太郎』(NHK CD Book) (NHK 出版)
8. 遠山顕 (2020) 『遠山顕の英語楽習』(5, 6月号) (NHK 出版)

別紙資料

1 学期オンライン授業に対する、72 期中 3 生徒へのアンケート結果

1. 授業形式について

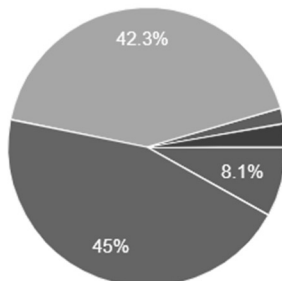
111 件の回答



- 今回のように、毎回異なる（一貫していない）テーマの展開でよい。（今年度のパターン）
- Listen for it のようなコースブックで一貫していたほうが良い。（昨年までのパターン）

2. 授業レベルについて （全体として）

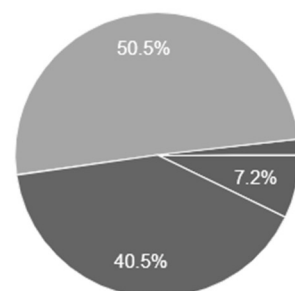
111 件の回答



- 難しい
- やや難しい
- ちょうどよい
- やや易しい
- 易しい

3. 1コマで扱う分量について （全体として）

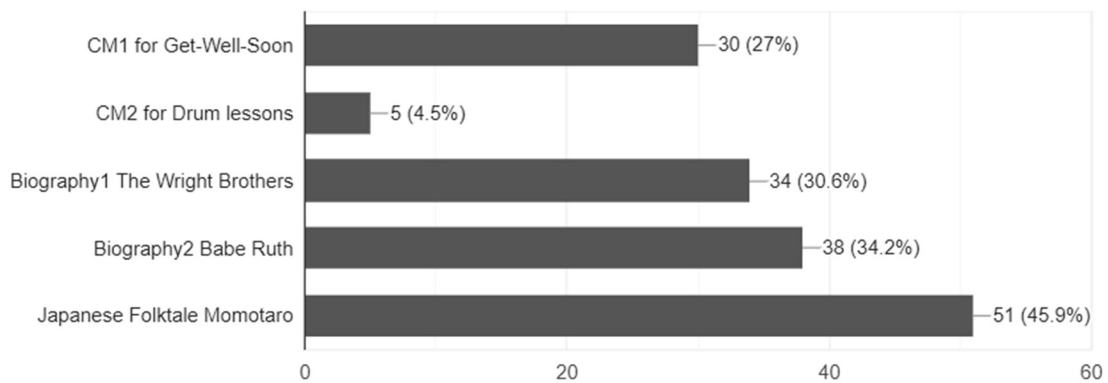
111 件の回答



- 多い
- やや多い
- ちょうどよい
- やや少ない
- 少ない

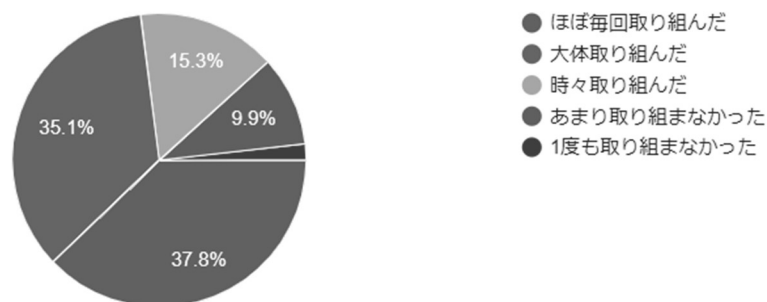
4. 授業内容について: 印象に残ったものはどれですか (複数回答可)

111 件の回答



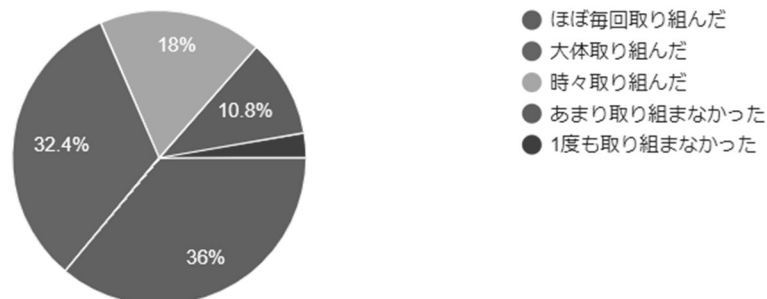
5-1 事前に配信したリスニング課題は取り組みましたか

111 件の回答



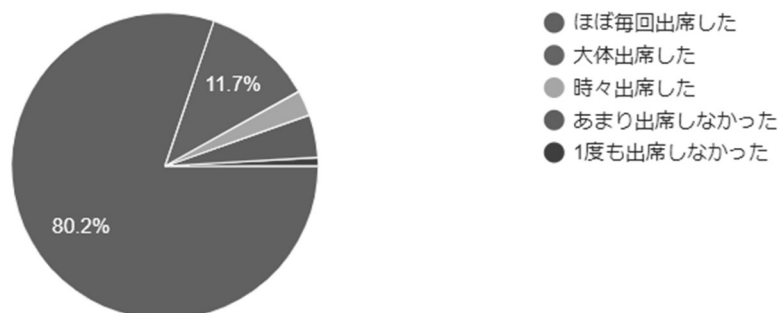
5-2 事前に配信したReview Summary に取り組みましたか

111 件の回答



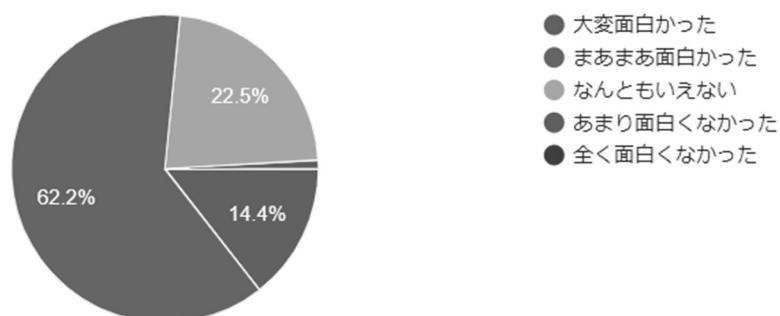
5-3 オンライン授業に出席しましたか

111 件の回答



5-4 オンライン授業を受けてどうでしたか

111 件の回答



5-5 事前課題→1回目（リスニング・内容確認）→課題→2回目（復習サマリー穴埋め・音読・フィードバック）という2週間で1課のサイクルについて

111 件の回答

